

政策番号 政策名

340 市民とともに政策を評価して市政運営に生かす

政策の方向

行政活動の基礎的な単位となる個々の具体的「事務事業」だけでなく、これらの「事務事業」を包括した基本的方針を示す「政策」そのものについても、市民とともに評価を行うことのできるしくみを整え、評価から得られた成果を「政策」や「事務事業」の見直しと新たな形成につなげる。

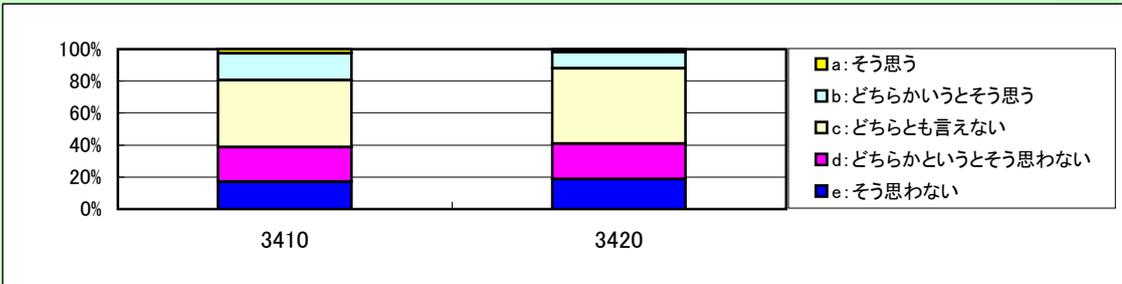
政策の評価

1 政策の評価に用いる客観指標の最新値と評価

施策番号	客観指標名	19		20		21	
		数値	評価	数値	評価	数値	評価
3410	政策評価における客観指標のうち、目標値が設定できた指標の割合 (%)	96.2	a	98.1	a	98.1	a
3410	事務事業評価（一般型）において、目標達成度評価を行っている事業割合 (%)	84.4	d	84.3	d	89.6	c
3420	再評価を行った総事業数のうち、完了した総事業数の割合 (%)	25.0	a	25.0	a	33.0	a
3420	(準) 情報公開度（建設企画課HPアクセス件数）（件）	9,658	d	15,318	a	27,147	a
客観指標総合評価			b		b		a

2 政策を構成する施策に対する市民生活実感評価

施策番号	設問	評価		
		19	20	21
3410	このアンケートなど、市民が市の仕事を評価する仕組みが整っている。	d	d	c
3420	公共事業の再評価によって事業の点検がしっかりできている。	d	d	c
市民生活実感総合評価		d	d	c



3 総合評価（市民生活実感総合評価＋客観指標総合評価）

B	客観指標については、全4項目のうち3項目でa評価となり、大変良い状況である。 市民生活実感については、2項目ともc評価となり、どちらとも言えない状況である。 こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的はかなり達成されていると評価する。	19年度	C
		20年度	C

4 政策の重要度（27政策における市民の重要度）

19年度		20年度		21年度	
順位	%	順位	%	順位	%
18	9.9%	16	12.3%	20	8.6%

5 原因分析・今後の方向性

<ul style="list-style-type: none"> ・総合評価は、昨年度のC評価からB評価となった。 ・行政評価については、客観指標で高い評価を得ている一方で、市民の皆様の実感が低いことが課題となっていた。このため、市民の皆様になじみにくい政策評価について、マンガでわかりやすく紹介したリーフレットの発行などの取組を進めた結果、市民生活実感評価は、d評価からc評価に上がったものの、まだ改善の余地はある。 ・行政評価の取組において、より適正な評価を行い、市民目線に立った市政を実現するためには、広範な市民参加が不可欠である。 <p>平成19年6月の「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例（行政評価条例）」の施行後、行政評価のホームページへのアクセス数が伸びるなど一定の改善は見られるが、引き続き、市民生活実感評価を上げていくためには、行政評価へのなじみにくさを払拭し、市民の関心を高めるような施策を展開することが重要である。</p> <p>また、行政評価をより市政運営に活用していくことも必要である。</p>

（参考）この政策を実現するための施策とその総合評価

施策番号	施策名 施策概要	評価結果		
		19	20	21
3410	市民とともに行う評価のしくみづくり			
	「政策」や「事務事業」の状況、本市の財政状況等を分かりやすく市民に伝える方法を工夫し、時代状況に応じて充実することにより、市民と共に評価を行える仕組みをつくる。	D	C	C
3420	公共事業の再評価			
	公共事業の効率化・重点化と実施過程の透明化を図るため、事業着手後一定期間を経過したものを中心に、第三者機関による再評価を行い、必要な見直しを行う。	C	B	B